

研究発表会の質問に対する回答

<p>外国語に苦手意識があるのですが、教員のスキルアップの仕方や研修などがあれば知りたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研で授業を互いに見合い、授業力向上につなげた。 ・OGCTの授業参観も行った。
<p>中学校は板書量が増えるため、大森東で工夫している点があったら知りたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りの中で身に付けさせていく。視覚的にイラストを活用することで分かりやすくしている。
<p>教科等横断型でカリキュラムが組まれており、計画の作成にかなり苦労したのではないかと思います。国際理解につながる半面、時数が不足やその教科、単元の本来のねらいとのズレがなかったのか気になりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時数について令和6年度は年間授業時数を増やし実施しているため、時数不足はない。 ・令和7年度は教育課程特例校の指定を受けている。 令和7年度 設定したOGCの時間。 第1・2学年は年間70時間。(余剰時間) 第3・4学年は年間70時間。 (総合的な学習の時間から35時間、外国語活動35時間) 第5・6学年は年間90時間。 (総合的な学習の時間から20時間、外国語70時間) ・作成したカリキュラムは、国際教育につながり、教科・領域のねらいから外れない年間計画となっているため、ぜひ活用してほしい。
<p>学級担任に向けてのOJTはどのようなものがあったか。ICTも英会話技術が高いレベルが求められると思うので、OGCTや指導員とのコミュニケーションを取りながら連携するのは時間を要するのではないかと考えています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語、英語の堪能なOGCTだけでなく、担任も日頃から積極的にコミュニケーションを図っている。 ・OGCTやALTとの打ち合わせの時間を事前に設定した。
<p>英語に嫌悪感がある先生や、乗り気でない先生方を巻き込んで、みんなで国際教育を進めていくために工夫されていることがあればお聞きしたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成を目的の1つとしている。英語だけでなく国際教育としてとらえて進める。
<p>英語嫌いになったこどもの割合はどの程度でしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が嫌いな児童はいないが、「英語が苦手」と回答した児童は全校で3%いた。人人以下の人数である。

環境部より

<p>掲示物の掲示や授業準備など、本研究の準備にどれぐらいの時間がかかったのか知りたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中や冬季休業中を主に利用して進めたが、日頃から少しずつ環境を整えた。
--	---

「友達と応援し合うために」の目的が少し共感しづらい印象でした。単元のゴールだと思うが、児童にはしっかりときたのだろうか。

・国際教育のクロスカリキュラムを強みに、総合的な学習の時間の将来になりたい自分や卒業文集の作成内容とリンクさせ、卒業後も友達を応援し合うために互いのことを知る大切さを繰り返し伝えてきた。

【児童の感想より】

- ・ぼくは、友達の「将来になりたい自分」を知り、将来に向けて頑張っている友達を見て、とても応援したい気持ちになりました。自分も夢に向かって頑張りたいですし、友達からも応援してもらいたいです。
- ・「将来になりたい自分」を伝え合っているときに、自分ができることや好きなことが同じ友達もいて、共感できました。応援したいという気持ちになり、自分も頑張りたいと思いました。
- ・みんなの「将来になりたい自分」を聞いて、元気をもらいました。未来への期待が高まり、さらに自分も頑張ろうという気持ちになりました。
- ・みんなそれぞれ違う夢があることが分かりました。友達が挫折しそうだったら声をかけて応援したいです。いつまでも友達を応援し続けたいなと思いました。
- ・外国語の授業を通して、みんなのことを応援して実際にその職業に就いてほしいと思いました。
- ・将来英語を使ってアメリカやヨーロッパに行って仕事をしたいと思っている人に共感しました。みんなの夢を応援したいと思います。
- ・友達の「将来になりたい自分」を聞いてすごいと思いました。教師、サッカー選手、ファッションデザイナーなど目標をもって、私もみんなみたいに頑張ろうと思うことができました。友達もいろいろな思いをもちながら目標に向かって頑張っていることを考えたら、私もたくさん応援したいと思いました。
- ・友達が自分の将来について一生懸命に発信している姿を見て、友達の将来の夢をとっても応援したい気持ちになりました。友達と交流し、十人十色の夢を伝え合えて楽しかったです。
- ・普段、将来になりたいことについて話す機会はあまりなかったため、今そのために努力している人や意外な夢を持っている人がいて応援したいと思う気持ちになりました。

<p>6年の授業について</p> <p>①リアクションの指導</p> <p>②文字を示さない</p> <p>こだわりや工夫を知りたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表のウォーミングアップに取り入れたように、同じ英語表現でも、リアクションの仕方にはレポーターがあるかを示してきた。 ・動画や実際に外国語指導員がパフォーマンスをする。 ・また、イングリッシュサーキットなどの活動を多く取り入れ、定着を図った。 ・イラスト一つから話題を想像することで、自然に近い英語でのやり取りができるように工夫した。
<p>普通教室で指導員と外国語指導員の2名体制での指導体制が一般的ですが、こうした体制ではどのような点が生かせそうですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の実践ではクラス担任でもすすめることが可能である。

<p>1つの授業に使用するソフトや投影するものを作成するのにどれくらいの手間がかかるのか気になりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OGC city は区教委主導のもと、関係指導主事（統括を含む）区内関係校長、大森東小教員、区内外国語部会の教員と業者が連携して作成した。 ・学校関係者は、内容の提示・吟味等 ・業者は、主に、ソフト（コンテンツ）の開発 ・作成期間は、最初の取りかかりから考えると、約1年程度。
<p>海外体験ルームのプロジェクトマップは、既存のソフト等を使って作られましたか。それとも、御校で一から独自ルートに作られましたか。（どのくらい時間をかけて作られましたか。）</p>	
<p>OGC ルームで使っていた VR アプリケーションがどのようなものか興味があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語学習コンテンツ、OGC city という海外仮想都市、旅行会社、マーケット、カフェ、病院、空港、動物園などいろいろと疑似体験できる。
<p>どれだけの割合で OGC ルームを活用しているか。パソコンでの画面作成方法を知りたい。画面作成したものは共有しているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日活用している。 ・区内で配付されているタブレット端末のスライドなどを活用し、児童や教員が作成したものを投影している。 ・OGCに限らず、いろいろな教科で活用している。
<p>OGC ルームの資料準備は相当な時間やエネルギーは必要なのではないかと感じました。実際の使用感、準備にかかる時間や負担感を教えてくださいたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段活用するOGC ルームの授業準備は、みなさんが授業準備するのにかかる時間と変わらないと思う。しかし、今回（研究発表）の授業準備には、通常より時間がかかったのは事実である。 ・大変だが、負担ではない。
<p>OGC に取り組まれた先生方の指導案の結果、考察、今後に向けての提言など、素直な声をお聞きすることはできますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じことを繰り返し指導したことにより、こどもたちはOGCに意欲的に取り組んでいた。また、英語力、自己肯定感の高まりが見られ、目指す児童像につながった。